

# No Perfume, No Future

## 紳士よ、香りを味方に引き込め

香りの魔術師アンリ・ジャックの香水が今年、ついに日本へ本格上陸したことはご存じだろうか。原材料や伝統的製法で最上にして孤高の存在にあるこのメゾン。服飾史家であり「香り」の探究者でもある中野香織は同メゾンを「教養ある男性の、嗜みの最後のワンピース」と語る。

Text / Kaori Nakano Edit / Kazumoto Kainuma

文 / 中野香織 (服飾史家)

車、時計、スーツ、靴、万年筆、ワインにいたるまで上質なものを知り、スタイルに関するひととおりの教養をマスターしているあなたにこそ、根源的にして究極の「最後のしずく」の嗜みとして極めていただきたいジャンルがある。香水である。

「香害は公害」とまで言われる日本で、香水をつける意味はいったい何なのか？

それを考える前にまず、「香害」となる匂いと、ここでお勧めする香水の香りをきちんと区別したい。前者は衣類の柔軟剤などに使われる化学物質であり、後者は主に天然香料で作られた芸術である。フランスでは調香師は詩人と同等に扱われる芸術家である。

注意したいのは、軽さゆえに多くつけがちな「オーデコロン」「オーデトワレ」と呼ばれるジャンルのフレグランスである。良質な製品も多いが、なかには、化学的な香料を大量に使ったものもある。その場合、濃度は薄くても矢のように匂いが飛び、「香害」と化する。ケミカルはできるかぎり遠ざけ、天然成分を主体とする芸術品としての香りのみを身に纏うという意識をまずはもっていただきたい。

そのうえで、香水をつける意味を考えてみよう。

「理性は視覚、本能は触覚、直感は嗅覚（と結びつく）」という言葉がアメリカのメイソン・クローリーという格言作家が残しているが、匂いはダイレクトに脳に届き、直感的な情報としてあなたの印象の感情的なベースを作るのである。視覚を通した「第一印象」よりもはるかに早く深く。

しかも、匂いの記憶は永遠に刻まれる。ふとした通りすがりの匂いに遠い昔の恋人の記憶が呼び覚まされるという経験はおおかりかと思うが、あなたの纏う香水の記憶が、あなたにまつわる思い出と結びつき、誰かの記憶のなかで永遠に生きることになる。

そのように香水が理性を超えた「無意識」の層に働きかけ、感情を

喚起し記憶と結びつく働きをすることを知れば、その力を尊重するほうが人生はより彩り豊かに味わい深くなることは想像できよう。さらに、経験上、ひそかに確信している第三の効能もお伝えしておきたい。天然素材をふんだんに使って作られた香水には、免疫力を高めたり、心身の働きを濁らせる雑駁な要素をデトックスしたりする働きがある。中世から修道院や薬局が植物の薬効を活かした香水を作っていたり、宗教施設が香を焚いて場を神聖に演出してきたりという歴史を知れば、あなたがデタラメでもなさそうなことは想像いただけよう。

さて、そのようにさまざまな威力をもつ香りの芸術を世に送り出しているブランドのなかでも、「アンリ・ジャック」は別格である。ここは天然香料約100%の香水だけを作り続けている。「あらゆる便利なものがなくなったとしても、香水は生き残るでしょう」と言い切る絶対の自信に支えられ、アンリ・ジャックはルームフレグランスやボディケアへと商品を展開したりすることはせず、希少性の高い宝石のような香水だけを作り続けているのだ。ジェンダーは問わない。そもそも上質な天然成分に男女の別があるはずもない。

濃度が高いと香り方も強いのではと警戒されがちだが、メインコレクションの“レ・エッセンス”はアル

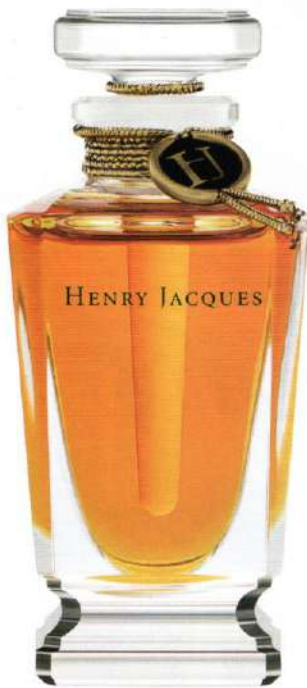
コールを使っていないため、遠くに匂いが飛ばない。パーソナルスペース内で親密に香る。花束の香りの繭にふんわりとくるまれているような、幻想的な香りのオーラが自分の新しい輪郭を削り上げているというような、曰く言い難い陶酔の感覚が生まれる。

しかもこの香りは、ほんの1、2滴で8時間は持続する。その間も刻一刻と香りが変化し続ける。肌にのせると人それぞれに異なる香り方をするので、同じ銘柄の香水であっても誰ともかぶらない。パーソナル

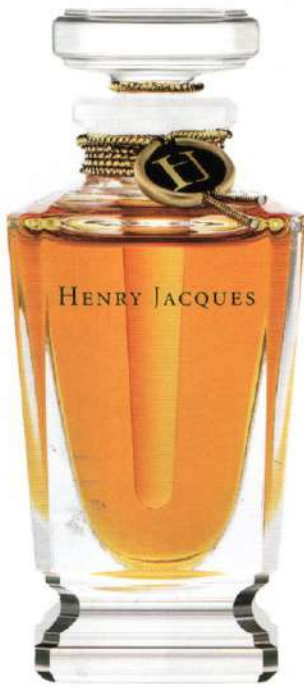


左ページ／創業者アンリ・ジャックの娘で、現CEOのアナリス・クレモナ。ブランドのクリエイティブの主力としても手腕を発揮する。

01\_1975年からおよそ半世紀にわたりオートパフューマリー（オーダーメイドの香水）として現代でも、ラボで大切に、手作業で作られている。  
02\_アンリ・ジャック創業者アンリ・クレモナ。妻のイヴェットと共にオーダーメイドの香水を作り続け独自の存在感を持つブランドへと成長させた。  
03,04\_アンリ・ジャックの美しいボトルやケース、世界各国のブティックをデザインするのはフランスの優れた建築家であり同ブランドのアーティスティックディレクターであるクリストフ・トレメール。



タンドレスドゥ アンリ・ジャック



デシベリア



ムスクオイル ロワサン ゼキパーージュ

香料濃度約100%の純粋なエッセンスから構成された「レ・エッセンス」。日本で取り扱うラインナップは17種類で、うち日本限定発売の「レ・エクスクルーシブ」が3種類。  
15ml ¥88,000 ~、30ml ¥140,800 ~  
(すべてアンリ・ジャック/アンリ・ジャック ギンザ シックス ポップアップ サロン ☎03-3289-0068)



2022年2月にアンリ・ジャックの世界観を表現したポップアップ サロンを、GINZA SIX B1Fにオープン。アンリ・ジャック ギンザシックス ポップアップ サロン 東京都中央区銀座6丁目10-1 GINZA SIX B1F ☎03-3289-0068(店舗直通)

スペースに接した相手は、あなたのひそやかな共犯者になったように、あなた独自の香りを共有し、呼び起こされた感情をあなたの個性と結びつけて脳内に留める。

高い価格にも理由がある。世界各地から集められ、厳選された最高品質の天然素材を使っていること。さらに、香料の抽出方法のひとつとして、大量の花弁を油にしみこませるアンフルラージュというコストのかかる古典的製法で創られていること。時間と手間暇がかかるアートなのである。さらに、建築家クリストフ・トレメールによる精巧なクリスタルガラスのボトルが、額縁のようにアートを引き立てる。消費期限がなく、むしろウイスキーのように香りの熟成まで楽しめることまでも考えると、人間におよぼす自然の力を多様な場面で堪能できるアートへの投資としては、むしろ適正に感じられてくるのではないだろうか。

ものを増やさないこと、捨てないことが推奨される

昨今の風潮においても、個性の印象を左右する香水への投資が理に適う。たとえば、スーツを一着買い足すのをやめて、「ニュメロスフディゴール」をつけてみる。未体験の世界観が脳内に広がる。昨年のスーツも別の新鮮さを帯びるように感じられてくる。服を替えずに香水を替えることで違う個性を演出できるというアンリ・ジャックの魔法を試していただきたい。

数々の名作のなかで BBB 読者に注意を促したい銘柄があって、それはチュベローズを主役にした「ダンテル オ クール」。かつて女性がチュベローズの香りをつけて男性に迫ることは禁止されていた。結婚すべきかどうかの判断が狂うからである。それほど無意識をかき乱す。女性に迫られる前に自分で纏い、免疫力をつけておくのも手かもしれない。

深層心理の世界がまだまだ開拓されつくしていないように、アンリ・ジャックの世界は未知の未来の可能性を感じさせてくれる。「香水をつけない女に未来はない」という名言があるが、香水をつけない男にもまた未来はない、とつづきたくなる。